

ドル/円相場のトレード戦略

【ドル/円 週足】



■中期展望

本年の展望は、2018 年の世界経済環境に関しては 2017 年の延長線上にあり、大きく変化する要因は見当たらず、通貨の強さも 2017 年の構図をおおむね引き継ぎ、ドル/円に関してはレンジ内で安定的に推移する可能性が高いと考えてきました。

堅調な米景気、FRB の利上げ観測の継続はドルを下支えし、緩やかなドルの上昇が期待できるため、大幅なドル下落のリスクは低いように考えられるものの、2017 年 12 月の FOMC で発表されたドットチャートによると 2018 年は 3 回の利上げが予想であり、その点から考えると米国の長期金利の上昇幅は限られたものとなる可能性が高く、ドルの上値も限りがありそうで、昨年の高値水準が上値目標としてきました。

しかし、1 月の相場は、年初に 113 円台の高値を付けて以降、ドルはじり安となり 1 月後半には 108 円前半まで値を下げました。

さらに 2 月に入ると、トランプ米大統領が洗濯機と太陽光パネルに対してセーフガード（緊急輸入制限）を発動することに署名し、貿易摩擦に対する懸念が拡大したことやムニューシン米財務長官が「弱いドルは貿易面で米国の利益になる」と発言したことなどをきっかけにドル安の流れが強まり、さらに米金利の急上昇と米株の急落を背景としたリスク回避姿勢の強まりから円買いが強まり、下値めどとしてきた昨年安値 107 円水準を下回り 104 円台にまで突入しました。

ドル/円相場のトレード戦略

しかし、その後は良好な米国経済を背景にドルの買い戻しが進み 9 月末には 113 円台と年初来高値を回復する動きとなっています。

9 月の FOMC では予想通り政策金利の引き上げを実施し、12 月の利上げを含め 2019 年末までに残り 4 回の利上げが期待される内容となり、ドル/円は底堅い動きが予想されます。

もともと、米国を中心とした貿易摩擦の激化はドルの上昇抑制要因であり、この点を考慮すると年末に向けてもレンジ相場が継続するものと考えられます。

■短期展望

先週は、米国の好調な年末商戦を受けた株高でドルも堅調に推移し、一時 114 円 04 銭の高値をつけました。しかし、米中首脳会談への警戒感やパウエル FRB 議長が利上げ打ち止めを示唆したこととで伸び悩む展開となり、113 円 40 銭水準で週を越えました。

注目の米中首脳会談では、19 年 1 月に発動予定だった 2000 億ドル規模の対中追加関税の発動を 90 日間延期することで合意され、米中貿易摩擦激化への懸念が後退しました。

しかし、米中貿易摩擦は緩和したわけではなく、まだ不透明感が強い状況でドルは上値を追っていく流れにはありません。

したがって、今週も 113 円台を中心とした相場が続きそうです。追加利上げ観測が後退するなか、週末の米雇用統計を確認するまでは動きにくい相場が続くものと思われます。